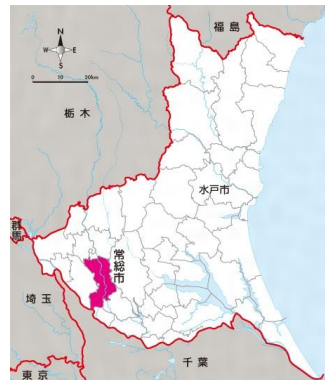


常総地域の水害被災者支援活動 たすけあいセンター「JUNTOS」活動レポート



多くのご支援、ありがとうございます



たすけあいセンター「JUNTOS」(運営:認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons)

〒303-0005 茨城県常総市水海道森下町 4346 の3番地 杉田ビル

☎ : 090-6568-9930 (代表)、0297-44-4281 FAX : 0297-44-4291

eメール: info@npocommons.org <https://www.facebook.com/JUNTOScommons>

2015年10月28日発行

水害から6週間。まだ厳しい現実が

最初に越水した若宮戸のニーズが新たに表面化し、連日多くの泥かきボランティアが入っています。しかし、常総市全体ではボランティアがまだ足りない状況です。家に入った土砂、田や納屋、側溝の掃除もありますし、集会所なども手付かずです。また、街は再びゴミが目立つようになっています。家の工事で出た木屑、濡れた断熱材、ブロックなどは産業廃棄物扱いとなり市が回収しないためです。

一方、炊き出しの件数がだいぶ減っています。避難所は市内5ヶ所となりましたが、避難者数は300名を切り、避難所がいつまで続くかが一つの焦点になっています。

遅れていた罹災証明が届くようになりました。これにより、住宅の応急修理制度や家の修復が難しい人、避難所にいる人などを対象にした住宅無償提供の申し込みが増えそうですが、制度に関する矛盾が表面化しています。

今回の罹災判定では、浸水が床上1メートルを超えるかどうか、半壊か大規模半壊の区分の目安とされています。全壊50、大規模半壊900、半壊2,800と半壊が多いのに、現状では応急修理も生活再建支援も得られない、見舞金数万円しか得られない・・・。車を複数失い、修理費に何百万円もかかり、1階の家財道具はほとんど買い直さないといけない。今考えられる救済策は、県や市に半壊世帯への独自支援の予算を確保してもらうことで、なんとか働かせたいと思っています。

そのためJUNTOSでは、半壊住宅で2階での在宅避難をしている人の状況を訪問して伺いました。130世帯の内「風呂が使えない」が30世帯、「自炊環境がない」が90世帯もありました。2階で生活をしている方が多い地区で炊き出しを行い、暖かい食事の提供と、住民同士が話せる場をつくろうとしています。まだ地元の方は片付けに追われています。決まった日時、場所に、会場設営や配食の応援に来てくれる方を県内で募っていきます（月1、2回でも良いですから、JUNTOSまでご連絡ください）。私は先日、娘の中学校での炊き出しで久しぶりにある人と会いましたが、心が癒されました。このような話せる場が、元気の素になると実感しました。



先週嬉しかったことは、カーシェアの利用者が2組生まれたこと。最初は避難所の方で、家に片付けに帰る際に協力し合うそうです。2組目はブラジルの方で、買い物や病院に行く際、助け合っていくとのこと。車のシェアを通じて、助けあう関係が生まれれば良いと思います。また住宅の無償提供で入れるところの多くは、つくばの元公務員住宅です。ここでカーシェアの車を置ければ、常総市に通いやすくなるし、団地内でのコミュニティづくりにもつながりたいと動いています。

住民票を移さず、つくばにバラバラに移ると、つくば市からも常総市からも支援や情報が届かず、孤独の問題が増えると危惧されます。それを防ぐため、各地から頂いた日用品や自転車など、引っ越しに合わせてお届けしながら、つながりをつくるための活動を始めました。このための物資をどのように集めるか、運ぶ車や人をどのように確保するか、倉庫をどうするか。

炊き出し体制づくりもそうですが、孤立を防ぎ、人をつなぐ活動するには、多くの人の協力が必要ですし、それをマネージメントする人材も必要です。外国人対象の情報提供、移動サービスの車の運転や整備、市内各地で行う炊き出しやサロンの運営協力、新たな住まいに必要な物資の確保や運搬に関する事など、建築、法律、心の問題などで専門家と被災者をつなぐ事業、これら事業を続けるための資金づくりなど、たくさんの方を粘り強く続けていくつもりです。ご協力いただける分結構です。引き続きご支援、ご協力をお願いします。

2015年10月25日
横田 能洋

	9月10日	9月11日	9月14日	9月16日	9月19日～	9月28日	10月3日	10月10日	10月25日	10月27日
常総市の状況	水害発生	市役所も水没。市内26カ所の避難所に4,501名が避難	常総市災害ボランティアセンター（VC）、常総災害FM、スタート	休校していた小中学校の一部が再開	住宅に関する相談会スタート	ブラジル人学校オプシオンの再開	被災者の公的住宅への入居開始	関東鉄道常総線、全線で運転再開。避難所統合がさらに加速化	VCへのボランティア累計が3万人を突破	市内避難所は5カ所283名に
JUNTOSの取り組み	9月17日	9月19日	9月22日	9月30日	10月4日	10月5日	10月10日	10月12日	10月21日	
	JUNTOS開設。通信第1号発行。「常総市水害対応NPO連絡会議」をJUNTOSでスタート	通話を交え、住宅に関する相談会で協力	災害FMで多言語放送番組を開始	常総市災害対策本部会議に初参画	日本災害復興学会関係者を交えた住民対象説明会実施	移動支援開始	常総市に対する要望書提出。北水海道駅前花壇を住民主体で整備	被災者のニーズ調査開始	カーシェアリング開始。自転車7台を水海道中へ寄贈。	

たすけあいセンター「JUNTOS」は、被災者の生活を支えつつ、市民同士のたすけあいによる生活復興を進めます



認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コムズ
代表理事 横田 能洋

コムズは、社会のために何かしたい人、NPO という道具を活かしたい人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人がつながり共に行動する市民社会の実現をミッションとしています。これは被災者支援活動でも変わりません。

外国人児童生徒の学習支援に取り組んでいた事務所が完全に水没し、機能が停止しました。大事なものを失いましたが、全国から駆けつけてくれた多くのボランティアにより、様々な活動に取り組んでいます。本当にありがたいことです。

また避難所や炊き出しなどの現場では、被災された方同士が必要な物資や資源を融通しあい「たすけあい」が生まれつつあります。失ったものは本当に大きいのですが、新しく豊かな地域コミュニティが生まれる可能性も感じています。

常総のまちの復興はまだまだこれから。やるべきことは本当にたくさんあります。まずは必要最低限な暮らしの復興を、そして生活全般を支える復興を図らなければなりません。それには行政だけではなく、全国の仲間の手も借りながら、私たち市民同士のたすけあいによる生活復興を進める必要があります。今こそ「juntos」（ポルトガル語で「一緒に」の意味）の精神が求められています。

いつか、あの災害がきっかけで常総が以前よりももっと暖かく、暮らしやすいまちになった、と言われるように。みんなで手を携えて取り組んでいきましょう。

活動内容

コムズの強みである外国人支援とコミュニティづくり、セーフティネット構築の経験とノウハウを活かし、被災者のニーズに柔軟に対応して、以下の活動に取り組んでいます。ボランティアなどでご協力いただける方は、お気軽にご連絡ください。（★は寄付金を活かした活動）

1. かわら版や多言語ラジオ番組の作成 ★



被災者に必要な情報が届けるかわら版「JUNTOS!通信」を作成。発災直後はほぼ毎日、現在週2回発行し、市内のコンビニや避難所などで配布。5か国語に多言語対応。また市の災害ラジオと連携し、多言語で生活情報をお届けする番組を作成。

2. 「常総市水害対応NPO連絡会議」の開催 ★



コムズが呼びかけ人となり、毎晩7時から情報共有や意見交換を行っています。これまで70近い団体が参加しました。片づけ、避難所、炊き出しなどの活動、移動支援、行政・制度など各グループからの報告を行っています。

3. 移動支援



全国の移動支援団体と連携し、通学・通院などを支援しています。多い日で、一日約30回もの利用があります。また、日本カーシェアリング協会とも連携し、住民に対するカーシェアを行っています。

4. 住民主体の活動づくり ★



交流会や炊き出しなど、住民同士が交流、意見交換できる機会をつくりながら、住民がまちづくりの主役となるようにしています。ブラジルの方なども交えた駅前花壇の整備後、バーベキューを行いました。

5. 相談対応 ★



専門家を交え、「災害救助法」や「被災者生活再建支援法」など制度を学び、住民同士意見交換できる場を設けています。また、通訳を交え外国の方の生活相談にも対応しています。

6. 被災者のニーズ調査



被災した方、特に在宅避難されている方は、具体的にどのようなことに困っているか聞き取り調査を行い、集計し、支援の具体化や行政への情報提供・提案につなげています。

7. 行政などに対する政策提言 ★



NPO 連絡会議で出された意見やニーズ調査から明らかになった状況をまとめ、行政と民間で協働で支援に取り組もうと提言書を提出しました。それを受けて、市長との情報交換もできました。

8. 救援物資の配布、片づけ資機材の貸出やボランティア・コーディネーター



全国から届いた救援物資をセットにして、被災者に配布しています。また片づけに必要な資機材や軽トラックの貸出、手が足りない時のボランティア支援とそのコーディネーターも行っています。

多くのご寄付、ありがとうございます

2015年10月15日までにご入金があったご寄付（JUNTOS 募金のほか、コモンズへの直接寄付も含む）

合計金額：**5,354,150**円

件数：**225**件（のべ34団体・191名）

ご支援いただいた団体名（順不同）（個人からのご寄付も多くいただいております。ありがとうございます）

公益財団法人 日本財団
社会福祉法人 阪神共同福祉会
中央ろうきん社会貢献基金

中央労働金庫 労働組合

認定 NPO 法人 市民のための健康・医療ネットワーク

認定 NPO 法人 浜松 NPO ネットワークセンター

認定 NPO 法人 難民を助ける会

NPO 法人 赤目の里山を育てる会

NPO 法人 金田台の生態系を守る会

NPO 法人 静岡県ボランティア協会

NPO 法人 市民活動サポートセンターとやま

NPO 法人 生活支援ネットワーク こもれび

NPO 法人 地域福祉サポートちた

NPO 法人 つくばアーバンガーデニング

NPO 法人 勿来まちづくりサポートセンター

NPO 法人 認知症介護家族の会うさぎ

NPO 法人 はつらつ会

NPO 法人 ひたち親子の広場

NPO 法人 ひまわり

NPO 法人 ふくろう

NPO 法人 まちづくり市民会議

NPO 法人 みんなの元気塾 さわやか近畿ブロック

NPO 法人 わたつみ友の会

一般社団法人 まなびの森

ユニバーシタスつくば（つくば市民大学を運営）

我孫子市国際交流協会 日本語イブニングクラス

大熊町「積小為大の会」

柏自主夜間中学有志一同

神崎組寺族会

里山資本主義フォーラム実行委員会

第4回テコッパ！卓球選手権参加者一同

取手蛍輪実行委員会

勿来ひと・まち未来会議

なにわ語り部の会有志一同

ママライフエキスポ

みえ市民活動ボランティアセンター

楽々会

NPO 会計支援センター

里山ホテル ときわ路



鎌田 實さんからもご寄付をいただきました。ありがとうございます。

「テレビの報道もほとんどなくなり、常総はもう大丈夫と思われるのですが、まだまだ被災者は大変な状況が続いています。ぜひ継続的なご支援をお願いします。」

鎌田 實 医師・作家

諏訪中央病院名誉院長、日本チェルノブイリ連帯基金理事長、日本・イラク・メディカルネット代表、東京医科歯科大学臨床教授、東海大学医学部非常勤教授

ご寄付いただいた方のメッセージ

「つくばみらい市（旧谷和原村）出身です。高校は水海道一高でした。今回の水害は他人事ではなく、実家も避難勧告が出ましたが無事でした。ニュースではなかなかわからない現地の状況を検索していたところ、ウェブサイトにとどろきました。大変な状況の中、詳しい現状をお知らせくださってありがとうございました。被災された方々、避難所で不自由な思いをされている方々へ、ほんの少しですがお役に立てれば幸いです。」

「筑波大学の卒業生です。連日の報道で学生時代に訪れたことがある場所、知っている地名をたくさん耳にし、現地に赴いて直接のお力になれないことを心苦しく、もどかしく思っています。微力ながら、募金という形で支援させていただきます。

災害に負けず、前を向いて頑張ってください。」

「常総市は私の生まれ育った町です。少ししか力になれませんが、役立てて頂ければ幸いです。」

「この度の水害、心よりお見舞い申し上げます。また、被災されながらもいち早く支援活動に向けて動かれているコモンズのみなさんに心より敬服するとともに、ねぎらい申し上げます。甚だ些少ですが応援の気持ちを寄せさせてください。1日も早い復旧を願っております。」

「基金によって集まった全国からの市民の気持ちが、被災された方々に届き、少しでも前を向くことができますように。よろしく願いいたします。」

継続的に寄付を募集しています

常総市が真の意味で復興するためには、まだまだ多くの活動が必要です。必要とされる活動を継続するために、ぜひ引き続きご支援ください。また、ぜひお知り合いの方などにもご紹介ください。

インターネットによるオンライン寄付

インターネットで、クレジット・カードやコンビニ決済などで、24時間ご寄付できます。「常総地域水害被災者支援活動」を選択してください。詳細はウェブサイトをご覧ください。

< <https://bokinchan2.com/ibaraki-mirai/theme1/bokin/page1.php> >

ゆうちょ銀行の口座へのお振込み

番号：00110-3-263714

名称：NPO センター・コモンズいばらき未来基金

※ 「JUNTOS 募金」とご指定ください。郵便振替の払込取扱票の通信欄に、「JUNTOS 募金」とご記入ください。

銀行口座へのお振込み

常陽銀行 本店営業部 普通 3637778

「認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ いばらき未来基金」

※ ただし銀行へのお振込の場合は、ご本人様確認ができませんので、eメールまたはお電話で、お名前、ご住所をお知らせください。

☎：029-300-4321 eメール：office@ibaraki-mirai.org